

2023 Taiwan International Science Fair (2023. 2. 6-10) Chemistry Fourth Award 獲得！！



「新たな視野の開けたTISF2023」

この度、私達は台湾の台北で行われたTISF2023というサイエンスフェアに日本代表として出場してきました。日本代表として参加するのは荷が重かったのですが、審査が自分の好きなポスターセッションだったということもあり、程よい緊張感で挑めました。その結果、化学部門で4等賞と評価して頂けてよかったです。またTISFでは模擬国連という海外の参加者とチームを組んであるテーマに関するディベートをするという活動も行いました。海外の参加者の容赦のない英語の前に、自分は英語が出来ないんだと強く感じましたが学びになりました。その他にも海外の参加者と多く交流する場があり、とても刺激的な1週間でした。(3年理数科 佐藤弘清)

「炭 in 台湾」

2月前半に台湾で行われた国際科学大会に参加してきました。審査発表の場では、周囲のブースも他国からの学生が多く、あまり耳にしたことのない言語や流暢な英語が飛び交うなど国内大会では感じられない緊張感を強く覚えました。慣れない英語での発表であり、私達の発表ブースの炭が安全性の面で全て展示禁止になるトラブルもありましたが、何とか研究への熱意を伝えられ、化学部門4等を受賞することができました。また文化交流として、ランタンフェスティバルや夜市を巡る機会や、それぞれの国の文化を紹介する場面もありました。この大会を通して得られた英語でのコミュニケーションへの姿勢を今後の活動に活かして行きたいです。(3年理数科 尾形真)

プログラミング教室in鶴ヶ谷市民センター (2023. 3. 4)

「ドローンを用いた小学生との交流」

私は3月4日に鶴ヶ谷市民センターで開催されたプログラミング教室の運営に参加しました。このプログラミング教室は鶴ヶ谷地区の小学校高学年の児童を対象としたもので、小さなトイドローンの操作を体験してもらいました。三高の有志生徒で障害物を作成し、それを避けながらゴールを目指すという実習では、小学生と私たちが協力してルートを考え、とても盛り上がりました。小学生でも理解できるように教えるのは難しかったのですが、普段ほとんど関わることのない小学生だけでなく、三高の他学年とも交流することができた、とても良い機会になりました。(3年理数科 竹谷ひかり)

「ドローンプログラミング教室」

私は、先日初めてSSHの行事に参加しました。対象の小学5年生にプログラミングの魅力や説明が伝わるように基礎知識を増やし、下準備を怠らず本番に臨みました。本番当日は全員で準備した甲斐があり、ドローンの故障にも迅速に対応でき今回参加して頂いた子供達全員、ドローンを上手く操作できた時の目の輝きや役員の私達と喜び合う姿は忘れられません。小学生にドローンを使ったプログラミングの楽しさを体験してもらうだけでなく、試行錯誤することの大切さを体感してもらうことができたと思います。今回のドローンプログラミング教室が成功したのは我々の努力だけでなく、SSH部の先生方や素晴らしい会場を貸して下さった鶴ヶ谷市民センターの方々の協力のおかげです。本当にありがとうございました。(3年理数科 岡部翔琉)



日本藻類学会第47回大会 (2023. 3. 16)

「藻類学会」

今回、藻類学会では自分たちが約一年かけて行った研究を、藻類について研究している北海道大学、東京海洋大学を始めとする海洋系学部の教授、学生の方々へ発表した。対照実験の条件がより等しくなるような配偶体の準備と培養方法などの確かなアドバイスを頂き、今後の研究に非常に有益な情報を得ることができた。この経験と知識、考察の視点を課題研究のみならず将来の大学での研究でも生かしていきたい。(3年理数科 三浦航)



ひらめきサイエンスin宮教大附属中学校 (2023. 1. 6)

「『ひらめき』から学ぶ」

今回のひらめきサイエンスでは、集まった有志と先生方で話し合い、光の性質とダイラタンシーについての授業を作成した。その後、宮城教育大学附属中学校に伺い、三高生が授業を実演した。光の性質については透明寒天を用いて光の性質を体感し、それらに応用する課題に取り組む授業を展開した。また、ダイラタンシーについては実物で衝撃で固まる現象を体感し、その考察をグループで行う授業を展開した。どちらも生徒達の活発な議論が交わされ、互いに楽しみながら授業を進めることができた。その中で、授業内で生徒自身がひらめくことで学ぶ大切さと、その環境を作る難しさを実感した。普段、生徒として学ぶがゆえに気づきづらいことを学ぶことができた一日となった。(3年普通科 桑島永吉)



「ひらめきサイエンスに参加して」

私はひらめきサイエンスに参加しました。今回は生徒だけで一から授業をつくりあげるといったものだったので、準備に多くの時間を費やしました。その中で私はダイラタンシー現象についてを担当しました。ただ仕組みを知るだけではつまらないので、あくまで中学生自身がひらめけるような授業を意識しました。当日は、中学生が仕組みに気付いたとき、「なるほど〜!」と言っているのを見て、とても嬉しかったです。今はインターネットで調べればなんでも分かる時代なので、「ひらめく」という体験は減ってきているように感じます。自分の力で思考し、習得するひらめきのプロセスを、これからの生活でも大切にしていきたいと感じました。(3年普通科 梶原遥)



第64回日本植物生理学会年会 (2023. 3. 16)

「日本植物生理学会に参加して」

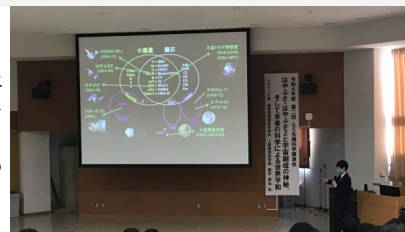
今回、東北大学で行われた日本植物生理学会の高校生発表に参加しました。植物に関する研究をしている高校生が全国から多く集まり、お互いに発表して意見交換したり、大学の先生方からアドバンスをもらったりしました。現地開催ということもあり、参加者と直接会話することができたので、より深く沢山の交流をして、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、実験に関して新しい視点での助言や指摘を頂き、今後研究する上での良い材料になりました。この学会を通して学んだことや貴重な経験をこれからの活動に活かし、研究をもっと面白いものにしていきたいです。(3年普通科 佐々木亮輔)

第2回先端科学講演会 (2022. 11. 25)

～はやぶさ・はやぶさ2と宇宙創成の神秘、そして未来の科学による世界平和～

「研究者は欲張りであるべき」

今回の講演会ではブラウン大学の廣井孝弘教授に話をさせていただきました。廣井教授は「宇宙風化」という分野について、まだ注目されていなかった時期から研究を進め、約40年間隕石と小惑星のつながりの解明を行ってきました。今回のお話を通して廣井教授は、自分が興味を持ったことを研究するときは、たとえ自分の考えを否定されたとしてもその考えを曲げてはいけない、と教えてくれました。私達は来年から課題研究を通して色々なことを議論していくことになると思うので、今回聞いたことを今後の活動に活かしていくことができればと思います。(2年理科 門田睦)



第3回先端科学講演会 (2023. 1. 24)

～君たちが主役となる舞台です！ NanoTerasu (ナノテラス) ～



ナノテラスは放射光の研究が行われている場所という認識でしたが、実際はさまざまな分野の人が集まる場所です、『新結合』のきっかけ作りにもなる場所だということがわかりました。講演の中で特に印象に残った言葉は「個々が強くなると、助け合うことはできない」という言葉です。強くなると興味をもってもらえないし、お互いに高めあうこともできません。自分の能力を伸ばすことは周りの人の能力も伸ばすことになると知り、より一層勉強に熱心に取り組んでいこうという気持ちになりました。(2年普通科 氏家早葵)

これからの行事

7月11日(火)	第1回先端科学講演会
7月15日(土)	南三陸フィールドワーク
8月7日(月)～9日(水)	つくば研修
8月7日(月)～9日(水)	白神フィールドワーク

宮城県仙台第三高等学校

仙台市宮城野区鶴ヶ谷1-19

TEL 022(251)1246

FAX 022(251)1247